

XVII Consortium

ビジネスイノベーション研究部会 / SOA部会部会紹介

2009年1月9日(金)

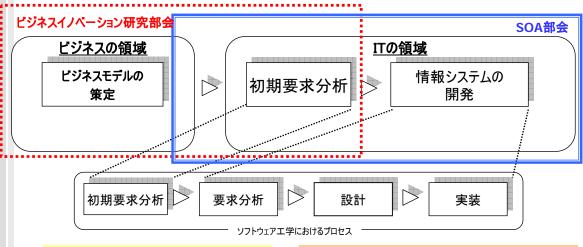
XMLコンソーシアム ビジネスイノベーション研究部会 / SOA部会

Copyright © XML Consortium 2008 All rights reserved.

ビジネスイノベーション研究部会 / SOA部会 紹介

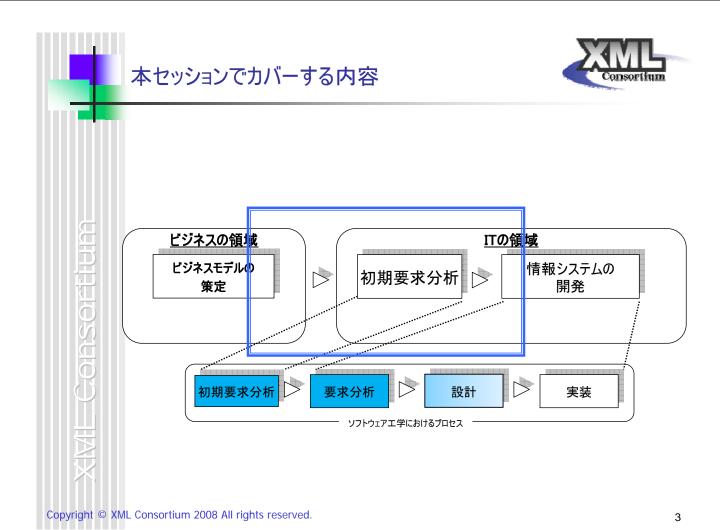


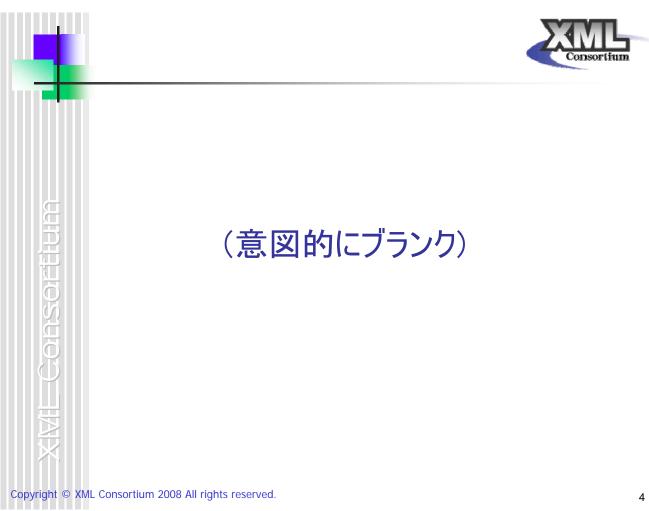
□ 両部会では、ビジネス戦略に基づくSOAベースの情報システム開発を調査・研究している.



- ビジネスイノベーション研究部会 活動内容
 - ビジネスの目標や計画を反映し、業務とITを 関連づける方法
 - エンドユーザ主導の情報活用の形態と必要な 技術の研究
- BI研 WG
 - i*法によるサービス分析の為のモデリングWG
- SOA部会 活動内容
 - 抽象的なSOAの概念から具体的なビジネス面でのメリット、 システム設計/実装の方針や方法、Webサービスの有効活用 方法等を導き出す
- SOA部会 WG (2008年度は4つのWG + 部会共通活動)
 - SOAサービス設計WG, SaaS II WG, SOAクライアント環境, Ws-Transaction技術調査WG
 - 部会共通活動: サービス・モデリング・ハンズオン

Copyright © XML Consortium 2008 All rights reserved.







XVII Consortium

i*法を用いたゴール指向分析とサービス設計 ビジネスプロセス分析の補完への期待

2009年1月9日

XMLコンソーシアム ビジネス・イノベーション研究部会/SOA部会 住友セメントシステム開発株式会社 加藤昌宏 日本アイ・ビー・エム株式会社 根本和郎

Copyright © XML Consortium 2008 All rights reserved.



メンバー一覧(五十音順、敬称略)



- 芦田尚人 (株)ブレイニーワークス
- 新井祐也 日本ユニシス(株)
- 飯沢篤志 (株)リコー
- 稲生章人 NECソフト(株)
- 尾々野正和 日立ソフトウェアエンジニアリング(株)
- 何翁径迪 (株)アイ・ティ・フロンティア
- 加藤昌宏 住友セメントシステム開発(株)
- 小林茂 日本ユニシス(株)
- 坂下秀彦 (株)JIEC
- 柴田昌宏 日本電気(株)
- 瀬田晃彦 日本ユニシス(株)
- 妹尾正美 NTTソフトウェア(株)
- 茶谷謙一 (株)日立製作所
- 根本和郎 日本アイ・ビー・エム(株)
- 橋本好史 (株)インテックシステム研究所
- 日力俊彦 日本IBMシステムズ・エンジニアリング(株)
- 牧野友紀 日本ユニシス(株)
- 町田寛 (株)インテックシステム研究所
- 横田治樹 NECソフト(株)



XVII Consortium



i*法を用いた SOA設計の為の要求分析

Copyright © XML Consortium 2008 All rights reserved



初期要求開発の必要性



- "IT does not matter"邦訳「ITにお金を使うのは、もうおやめなさい」
- iTunes, iPod, Wii,差別化要因はテクノロジーではなく、商品設計、Wantsの詳細発掘





The smartest way to invest in IT today?

IT Doesn't Matter by Nicholas G. Carr





- ■簡潔な表記法
- 低い学習コスト
 - リッチピクチャーに似た視覚化記法
 - 少なくとも VDM++ や Z よりは直感的
- モデリングの系譜、2流派
 - "UML as a sketch"派 ← ポンチ絵で人が見やすい i*法はこちら
 - <u>"MDA"派</u> ← Z,OCL,VDMの様な専用言語 基本はメタプログラミング ある種のパターンを書き出す
- 要求の細分化が目的、人が分かること

Copyright © XML Consortium 2008 All rights reserved.

c

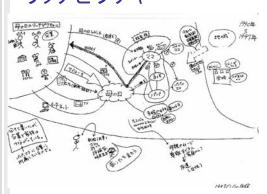


記号化言語 (スケッチ)



表記ルールに縛られずに 課題を視覚化した図 低い学習コスト、人にとって理解しやすい

リッチピクチャー



マインドマップ



Copyright © XML Consortium 2008 All rights reserved.

10





課題を言語化したもの 厳格なルール Machine readable

VDM言語

Z言語

Add: Name * Email * RegisterBook -> RegisterBook Add(name, email, book) == book munion {name |-> email} pre name not in set dom(book); Delete: Name * RegisterBook -> RegisterBook Delete(name, book) == {name} <-: book pre name in set dom(book); Number: RegisterBook -> nat Number(book) == card dom(book)

```
\begin{array}{l} j: \mathbb{N} \bullet \\ \text{`} w: f_1 \\ (b_1 = 1 \land w = h_{1:1} \lor \dots \lor b_1 = m_1 \land w = h_{1:m_1} \lor \\ b_1 = m_1 + 1 \land w \in \{x: g_1, \bullet x : 2\} \lor \dots \lor b_1 = m_1 + n_1 \land w \in \{x: g_{1:n_1} \bullet x : 2\} ) \\ \land (b_2 = 1 \land w = h_{1:1} \lor \dots \lor b_2 = m_1 \land w = h_{1:m_1} \lor \\ b_2 = m_1 + 1 \land w \in \{x: g_{1:1} \bullet x : 2\} \lor \dots \lor b_2 = m_1 + n_1 \land w \in \{x: g_{1:n_1} \bullet x : 2\} ) \bullet \\ b_1 = b_2) \land \end{array}
 \begin{array}{l} \vdots \wedge \\ (\forall \, w: f_r \, | \\ (b_1 = 1 \wedge w = h_{r_1} \vee \ldots \vee b_1 = m_r \wedge w = h_{rm_r} \vee \\ b_1 = m_r + 1 \wedge w \in \{x: g_{r_1} \bullet x: 2\} \vee \ldots \vee b_1 = m_r + n_r \wedge w \in \{x: g_{rn_r} \bullet x: 2\}) \\ \wedge (b_2 = 1 \wedge w = h_{r_1} \vee \ldots \vee b_2 = m_r \wedge w = h_{rm_r} \vee \\ b_2 = m_r + 1 \wedge w \in \{x: g_{r_1} \bullet x: 2\} \vee \ldots \vee b_2 = m_r + n_r \wedge w \in \{x: g_{rn_r} \bullet x: 2\}) \bullet \\ b_1 = b_2) \\ \end{array}
```

Copyright © XML Consortium 2008 All rights reserved.

CATWOE (汎用的なモデリング)



- Customer
- Actor
- Transformation process
- •World view(世界観)
- Owner
- Environment constrains

影響を受ける人 実行者 何が起きるのか そうすることの価値 プロジェクト・オーナー

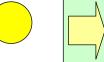
環境要因

Actor 実行者

Transformation process

Owner 所有者

Environmental Constraints 環境要因



Customer 受益者

Copyright © XML Consortium 2008 All rights reserved.

i*法:モデル構成要素





アクター: ゴールを達成するために行動する実体.



ゴール:達成したい事柄の条件や状態.



ソフトゴール:達成の可否が明確に判断できない条件や状態.



タスク: ゴールを達成する特定の手順.



リソース: ゴール達成(タスク遂行)に利用する物や情報.

Copyright © XML Consortium 2008 All rights reserved.

13

4

<u>Consortifun</u>

i*法 = 依存関係の詳細化





Wants を持つアクター を持つアクター を持つアクター を持つアクター AはBの協力を得てゴールを達成したい B AはBと協力にソフトゴールを達成したい B AはBにタスクを実行して欲しい B AはBに情報や物を供給してほしい

Copyright © XML Consortium 2008 All rights reserved.

14





■ アクター間の利害関係の分析が可能

- ゴールは何か(ゴールサービスモデル)
- 必要なリソースの明確化
- 何を協力して欲しいのか(タスク分割)
- どのようにやって欲しいのか (早く、安く、・・・)

Copyright © XML Consortium 2008 All rights reserved.

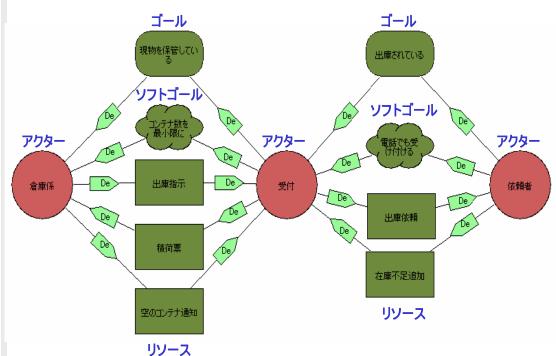
15

1

Dependencyモデル例(酒屋モデル)



IMIL Consortium

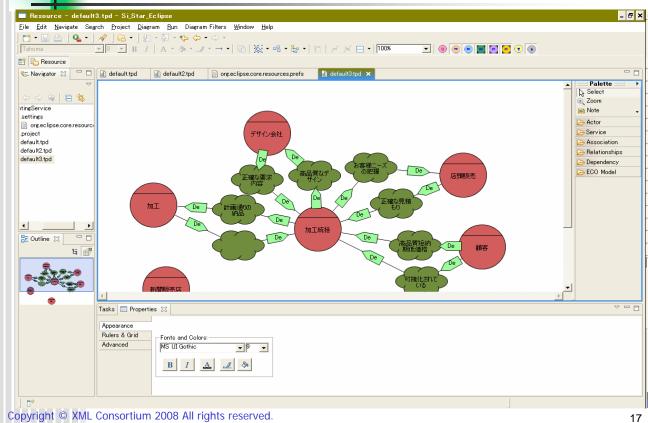


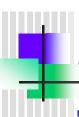
Copyright © XML Consortium 2008 All rights reserved.



作画ツール: Si_Star_Eclipse



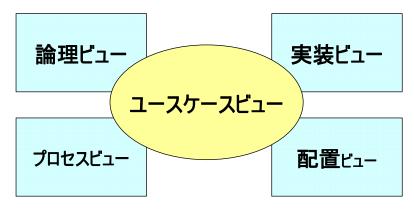




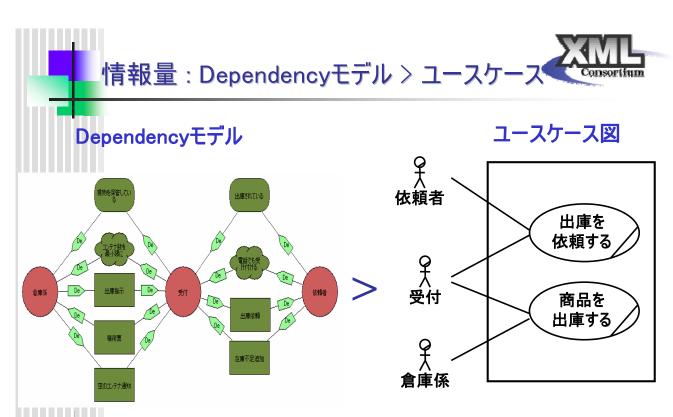
4+1 view (RUP)に於けるユースケース



- ユースケース駆動開発の特徴
 - ユースケースは最初に仕様確定する
 - ゴールを管理する
 - 後工程にレビューは存在しない、ユースケース設定ミスは致命的となる



Rational Unified Processに於いて ユースケース自体は反復されない、推敲しない、ゴールだから。

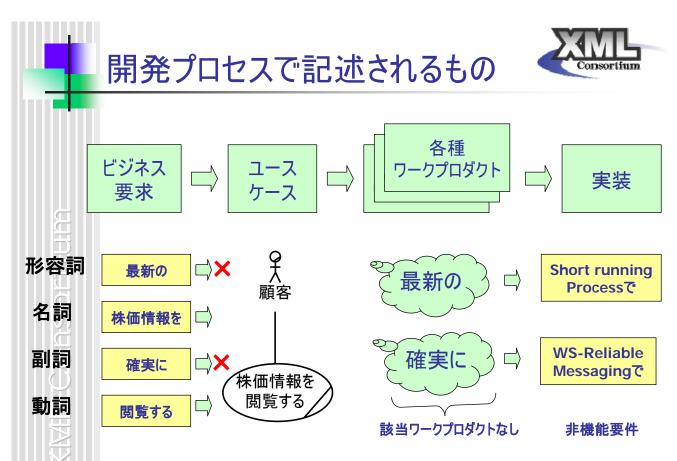


i*法だけが示せるもの:

ゴール、アクター間利害関係、 依存しているリソース、どのようにやるか(how)

Copyright © XML Consortium 2008 All rights reserved.

19



現行の開発プロセスでは、形容詞、副詞は視覚化されない



品詞でとらえるモデリングの世界

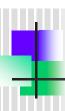


XIVIL Consortium

品詞	対象領域	設計(どのように視覚化するか)
名詞的	◆情報の形、	•ER図
世界	関連性を定義する	•クラス図
		パッケージ図
動詞的	◆インタラクション	•BPEL, BPMN, DFD図
世界	◆二者間の作用/披作用	■コラボレーション図
		シーケンス図
副詞的	◆状況	ココの可視化が難しい
世界	◆横断的関心事	i*法で

Copyright © XML Consortium 2008 All rights reserved.

21



元々のビジネス要求



- 早期立ち上げ 「とにかく早く立ち上げなさい。」
- 高付加価値 「満足以上のサービスを提供しなさい。」
- 全体ビジネスプロセスの効率化 「業務の流れの効率化に努めなさい。」

いいものを早く安く提供しなさい。もちろん無駄なことはしては駄目

本来、副詞は重要!:早く、安く、効率的に、無駄なく

JIS X0129 ソフトウェア品質特性



非機能要件のおさらい、多様なまとめ方の一つ

品質特性	定義
機能 Functionality	機能の集合の存在及びそれらの明示された性質の存在をもたらす属性の集合。機能は、明示的又は暗示的な必要性を満たすものとする。
信頼性 Reliability	明示された条件の下で、明示された期間、ソフトウェアの達成の レベルを維持するソフトウェアの能力をもたらす属性の集合
使用性 Usability	明示的又は暗示的な利用者の集合が、使用するために必要と する労力及び個々の使用結果による評価に影響する属性の集合
効率性 Efficiency	明示的な条件の下で、ソフトウェアの達成のレベルと使用する資源の量との間の関係に影響する属性の集合
保守性 Maintainability	仕様化された改訂を行うために必要な労力に影響する属性の集合
移植性 Portability	ソフトウェアをある環境から他の環境へ移す際のそのソフトウェアの能 力をもたらす属性の集合品質特性

Copyright © XML Consortium 2008 All rights reserved.

23

-ilities 31種 (非機能要件)



accessibility accountability

- accuracy adaptability
- administrability
- affordability
- agility
- auditability
- availability
- credibility
- standards compliance
- process capabilities
- compatibility
- configurability
- Correctness
- degradability
- demonstrability
- dependability
- deployability
- distributability
- extensibility
- fidelity
- flexibility
- installability

- composability

- customizability

- durability
- evolvability
- Integrity
- interchangeability

- interoperability
- learnability
- maintainability manageability
- mobility
- modularity
 - nomadicity
- operability
- portability
- precision
- predictability
- recoverability
- relevance
- reliability
- repeatability
- reproducibility
- responsiveness
- reusability
- robustness
- safety
- scalability
- seamlessness
- serviceability (a.k.a. supportability)
- securability
- simplicity
- stability
- survivability
- sustainability
- tailorability
- testability
- timeliness understandability
- usability



非機能要件 = 副詞



AMI_Consortium_

WS-*	副詞	動詞
WS-Security	内容が第三者から見えないように、 受取人が改ざんできないように	包む
WS- ReliableMessaging	到着通知付き送信で	送る
WS-Federation	複数の承認経路で	認可する
WS- AtomicTransaction	処理した、しなかったを、確定的に	実行する
	•••	•••

i*法でSOAの実装設計の精度向上を狙う

Copyright © XML Consortium 2008 All rights reserved.

25



ソフトゴールを標準化したとすると



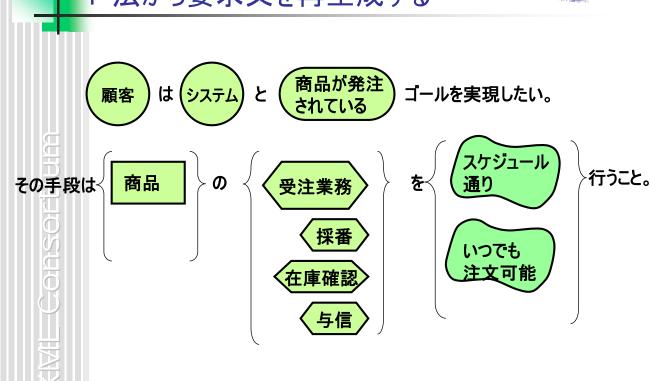
AL-Consortium

非機能要件	ソフトゴール
が成形女性	
accessibility	誰でも使いやすく
accountability	内容証明付きで
accuracy	高い精度で
adaptability	いろいろなものと適合可能で
administrability	登録しやすく
agility	迅速に
auditability	対監査性があって
Standards compliance	標準技術で作ってあり
composability	複合組み立て可能で
configurability	定義可能で
deployability	配布可能で



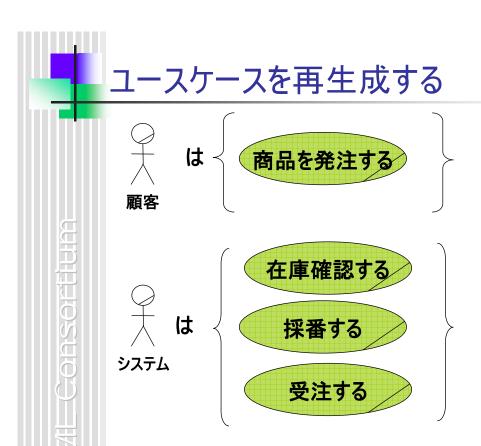
i*法から要求文を再生成する





Copyright © XML Consortium 2008 All rights reserved.

27



アクター間の連携が可視化できない非機能要件は書けない





サービス設計のアウトライン例

項目	内容
サービス名	サービスを識別する名前
内容	サービスの概要
利用者の目的	利用者がサービスを利用する目的
提供者の責務	提供者が負う責任や範囲
要望·制約	利用者の要望と制約条件
利用者	サービスの利用者
提供者	サービスの提供者
入力	サービス利用者が提供者に与えるリソース
出力	サービス提供者が利用者に与えるリソース
非機能要件	

Copyright © XML Consortium 2008 All rights reserved.

29



サービス設計の補強



現行のサービス設計書

	7013	
	項目	内容
	サービス名	サービスを識別する名前
	内容	サービスの概要
	利用者の目的	利用者がサービスを利用する目的
	提供者の責務	提供者が負う責任や範囲
	要望·制約	利用者の要望と制約条件
	利用者	サービスの利用者
	提供者	サービスの提供者
	入力	サービス利用者が提供者に与えるリソース
	出力	サービス提供者が利用者に与えるリソース
	非機能要件	フリーフォーマット
١		

非機能要件欄の テンプレート化の可能性

i*併用版

	項目	内容
	サービス名	サービスを識別する名前
	内容	サービスの概要
	利用者の目的	利用者がサービスを利用する目的
\	提供者の責務	提供者が負う責任や範囲
/	要望·制約	利用者の要望と制約条件
	利用者	サービスの利用者
	提供者	サービスの提供者
	入力	サービス利用者が提供者に与えるリソース
	出力	サービス提供者が利用者に与えるリソース
•	非機能要件	□WS-ReliableMessaging (*
		□WS−Securityで ■BPELで
		□ESBで
		■SCAで Cは同世で
•		口非同期で :
		:



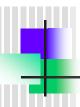
i*法によるSOA要求分析まとめ



- ユースケースの補完が可能
- SOA = 非機能要件が多い
- 非機能要件管理精度向上メソッドとして i*
- ソフトゴールの標準化による均質化推進

Copyright © XML Consortium 2008 All rights reserved.

31





MI_Consortium_

(意図的にブランク)



XVIL Consortium



ゴール指向分析を用いた サービス候補の導出

© XML Consortium



はじめに

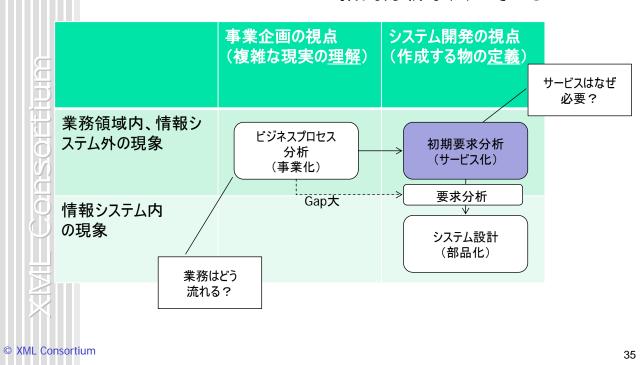


- ビジネスプロセス策定~サービス候補抽出まで、モデリング の思考実験を実施した。
- ビジネス戦略に基づくサービスの導出が課題となった。
- 今回、「ゴール指向分析手法は導出するサービスの有効性に根拠を与える」という仮説を立て検証を行っている。
- i*法を用いた検証作業から「本当に必要とされるものを提供する」「意味のないシステムを作らない」という可能性は見えてきた。

サービス化の手法



「サービスはなぜ必要?」を考えること ← ゴール指向分析手法で考える



ワークフロー・モデルを軸にした ビジネスプロセス分析の課題



課題

- A.サービス導出の基底となるアクティビティは不安定
- B.サービスの目的が明確にならない
- C.誤った共通化によるサービス利便性の低下
- D.人と情報システムの関連が俯瞰できない

© XML Consortium

ゴール指向分析



一つの目標(ゴール)を満たすためのより小さい目標に分解する

and結合:下位全てのサブゴールの達成が必要

or結合:下位いずれかのサブゴールの達成が必要

ゴール: 状態または条件を表わす

勉強会が成功する

Why?

and

参加者多数いる

参加者為数いる

を加者満足度高い

What

or

Flow?

案内多い

参加費無料である

時節に内容が合致

目標を構造的に明らかにすればシステムへの要求が明らかになる

© XML Consortium

<u>Consortiun</u>

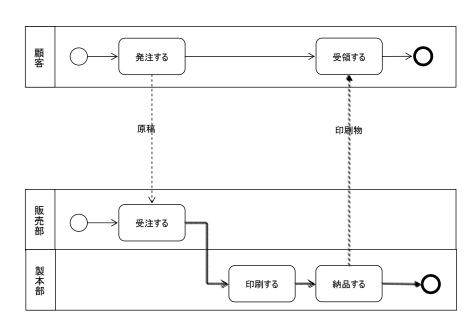
37

L

ワークフロー・モデル

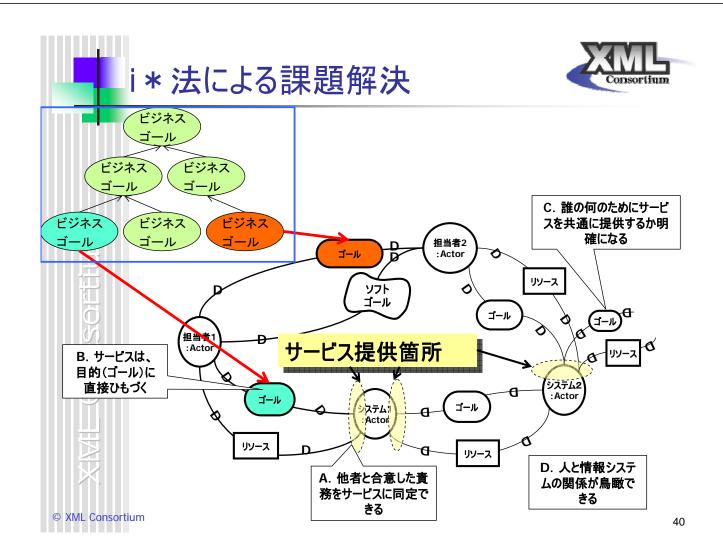


ワークフロー・モデルは事物の因果関係 (Aが起きたらBが起きる)を表現する



XIVIL Consortium

ゴール・モデル(i * 法) ゴール・モデルは事物が関係する事由を表現する 製本の委託 印刷物 原稿 販売の委託 販売部門 印刷物 製造部門 顧客 原稿 原稿 製造の委託 販売部門 製本の委託 © XML Consortium 39



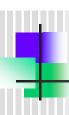


XVIE Consortium



検証結果

© XML Consortium



検証結果

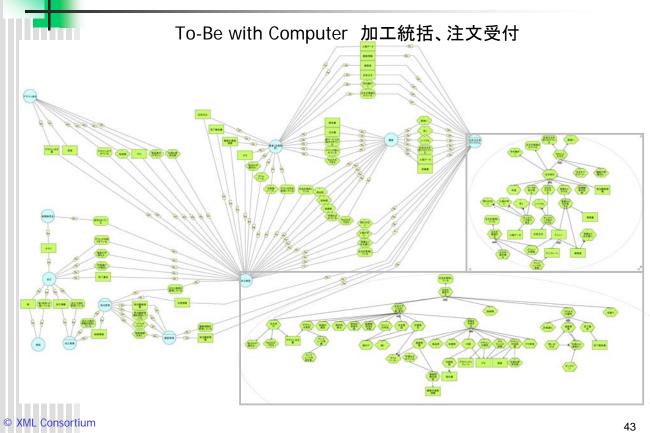


	課題	解決できた?		
	A.サービス導出の基底となるアクティビティ は不安定	0	Dependency ゴールと結線しているタスクになる。 Dependency ゴールが何か理解するのが難しい。 ゴールには複数の階層があり、どの階層のゴールにサービスを合わせるのか判断する必要があるが、情報システムの開発者にはこの判断はできない。	
	B.サービスの目的が明確にならない	0	Dependency ゴールがサービスの目的として明確 にできることが確認できた。	
	C.誤った共通化によるサービス利便性の低下	0	利用者の目的の類似性で見た場合、同じ目的で利用するサービスは共通化できる。さらに Rationaleモデルを比較することで共通化が可能 かどうかを検討することができた。	
/ /	D.人と情報システムの関連が鳥瞰できない	0	Dependencyモデルが俯瞰図である。	

© XML Consortium











	PL			
Į				
Ì	Ġ			
		/		
	9			
	_		-	

項目	内容	ビジネスプロセ ス分析で抽出 可・不可	どこから導出されるの か
サービス名	Web広告受付サービス	0	Dependency ゴールと結 線しているタスクの名前 +ソフトゴール
サービスの内容	広告サービスの受注(内容の選択、見 積もり、注文受け付け)をオンラインで行 う	Δ	"サービス名"となるタスク 配下のタスクとリソース
利用者の目的	広告サービスの発注を行う	Δ	Dependency ゴールとリ ソース
提供者の責務	広告注文を受け付ける 見積もりを正確に行う	Δ	提供側の内部ゴール
要望·制約	随時注文を受け付ける 操作が容易	Δ	Dependency ソフトゴール
利用者	顧客	0	アクター名
提供者	広告管理システム	0	アクター名
入出力情報	(入力)顧客情報、入稿データ、 (出力)見積書、広告注文	0	Dependency リソース

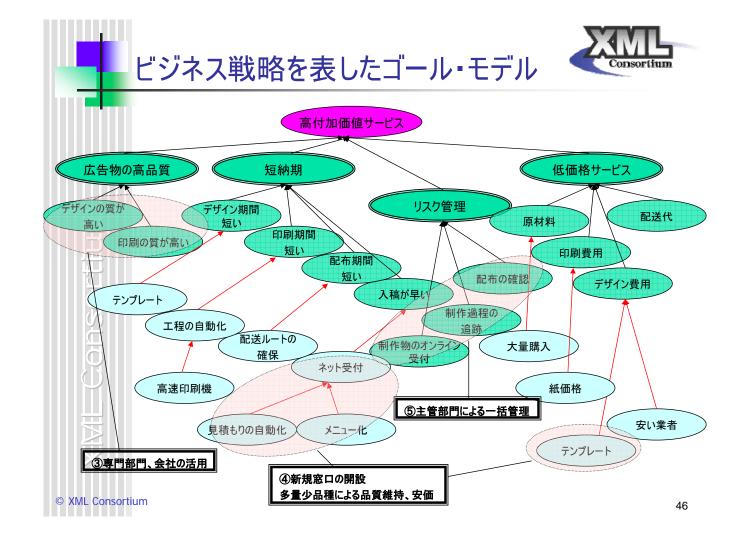


XVIE Consortium



想定したビジネス戦略

© XML Consortium





XVIE Consortium



課題の解決

© XML Consortium



ワークフロー・モデルを軸にした ビジネスプロセス分析の課題



課題

A.サービス導出の基底となるアクティビティは不安定

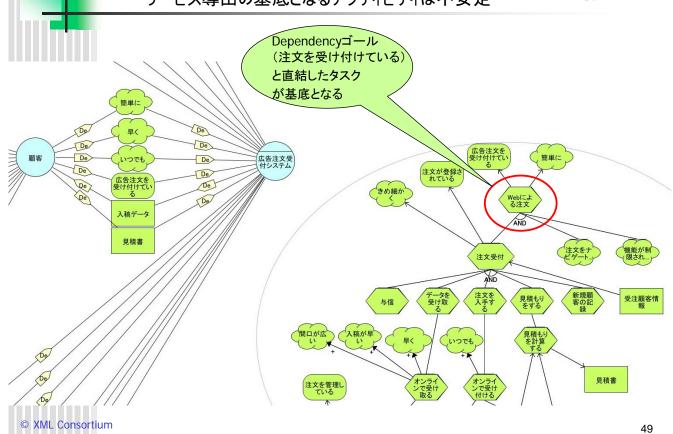
- B.サービスの目的が明確にならない
- C.誤った共通化によるサービス利便性の低下
- D.人と情報システムの関連が俯瞰できない

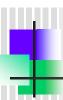


課題Aの解決



サービス導出の基底となるアクティビティは不安定





ワークフロー・モデルを軸にした ビジ<u>ネスプロセス分析の</u>課題

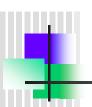


課題

A.サービス導出の基底となるアクティビティは不安定

B.サービスの目的が明確にならない

- C.誤った共通化によるサービス利便性の低下
- D.人と情報システムの関連が俯瞰できない

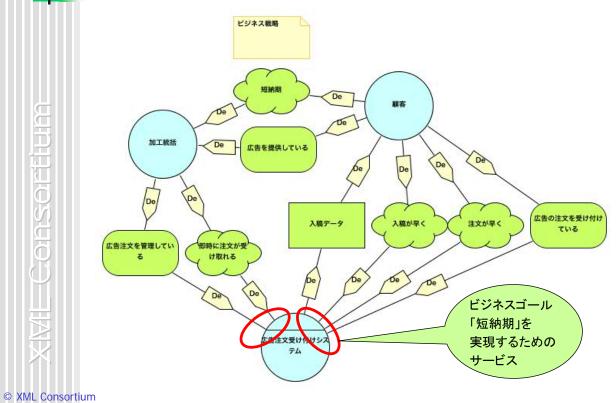


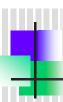
Consortium

課題Bの解決



サービスの目的が明確にならない





ワークフロー・モデルを軸にした ビジネスプロセス分析の課題



51

課題

- A.サービス導出の基底となるアクティビティは不安定
- B.サービスの目的が明確にならない
- C.誤った共通化によるサービス利便性の低下
- D.人と情報システムの関連が俯瞰できない

© XML Consortium

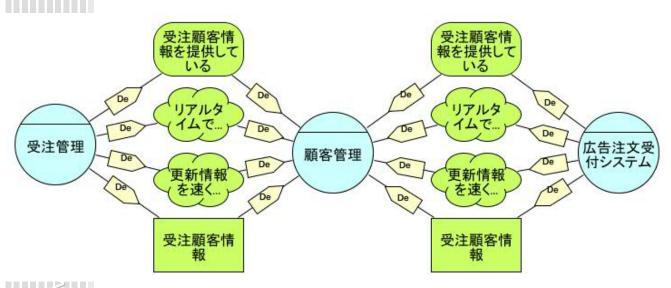


課題Cの解決



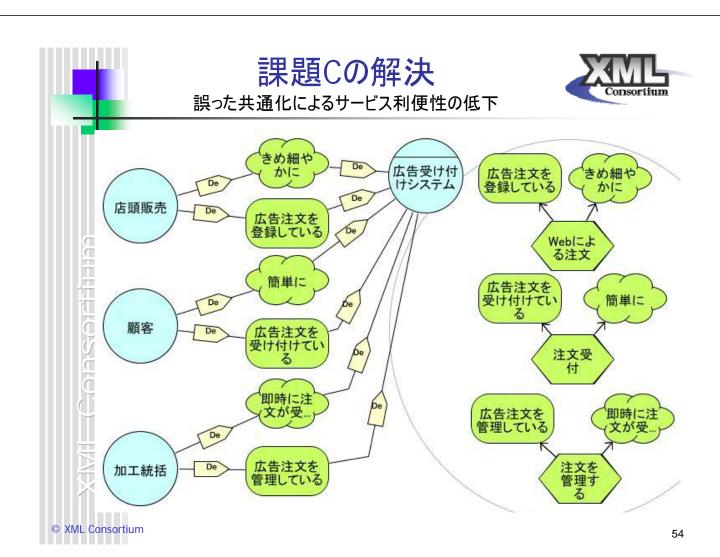
誤った共通化によるサービス利便性の低下

利用者から見たゴール、ソフトゴール、リソースが同じなら共通化出来る





53





□ ワークフロー・モデルを軸にした ビジネスプロセス分析の課題



Consortium

課題

- A.サービス導出の基底となるアクティビティは不安定
- B.サービスの目的が明確にならない
- C.誤った共通化によるサービス利便性の低下
- D.人と情報システムの関連が俯瞰できない

© XML Consortium

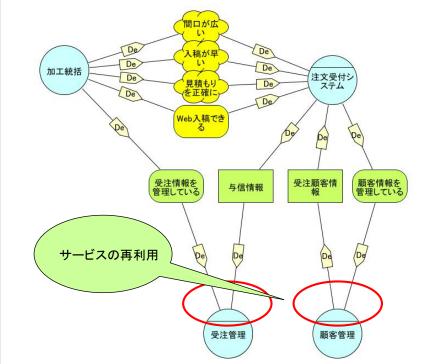
55



人と情報システムの関係(D)



システム間の俯瞰図(一部を省略)



XWI Col

© XML Consortium



サービス記述(再掲)



MI Consortium

項目	内容	ビジネスプロセ ス分析で抽出 可・不可	どこから導出されるか
サービス名	Web広告受付サービス	0	Dependency ゴールと結 線しているタスクの名前 +ソフトゴール
サービスの内容	広告サービスの受注(内容の選択、見 積もり、注文受け付け)をオンラインで行 う	Δ	"サービス名"となるタスク 配下のタスクとリソース
利用者の目的	広告サービスの発注を行う	Δ	Dependency ゴールとリ ソース
提供者の責務	広告注文を受け付ける 見積もりを正確に行う	Δ	提供側の内部ゴール
要望·制約	随時注文を受け付ける 操作が容易	Δ	Dependency ソフトゴール
利用者	顧客	0	アクター名
提供者	広告管理システム	0	アクター名
入出力情報	(入力)顧客情報、入稿データ、 (出力)見積書、広告注文	0	Dependency リソース

© XML Consortium

57



仮説検証のまとめ



- サービスはなぜ必要かを説明できる
 - 根拠をモデルとして表すことが出来る
- 利用者の視点でサービスを導出できる
- ビジネス戦略に基づくSOAベースの情報システム開発に効果がある
 - ビジネス戦略とサービスの目的が関連づけられる